

第5回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会  
議事録

平成25年5月17日（金）14:00～  
中津川市健康福祉会館4階多目的ホール

【司会】 それでは、定刻となりましたので、第5回中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開会させていただきます。

皆様方におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は、中津川市企画部リニア推進局長の柴田でございます。本日の進行を務めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

なお、中津川市ではクールビズを導入しております関係で、ノーネクタイで出席をさせていただいております。事前のご案内にはなく、お詫び申し上げますとともに、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、初めに、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会の竹内委員長からご挨拶を頂戴したいと存じます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 竹内でございます。

もう何度目かでございますので、特にご挨拶申し上げることもございませんが、今日は皆さんのお手元に既に届いていると思いますけれども、ビジョンの案がまとまりまして、要するに我々の委員会としては一区切りの委員会でございます。この期に及んで何をご議論いただくかというところはあるんです。あまり今日このビジョンの取りまとめについて根本的なところでひっくり返されても困ると議長としては内心想っております。かといって、この前、あれはどこであったんですかね、甲府であったのかな、JR東海のほうからのリニア中央新幹線に関する中間駅の問題の説明会がございまして、そこでJR東海が何を考えているか、どういうことを考えているかということが明らかになったわけでありまして。私なんかは規定方針どおりだというふうに受けとめておりますけれども、それを報道した新聞の論調がそれぞれでございまして、大変おもしろいなと思っているわけでありまして。

要するに、地元はかなり協力的でフリーハンドを認めている。地元で考えてくださいよという形になっているという解釈もありましたし、それから、何とけちな、こんなことしかやってくれないのかと、こういう話もありました。どう受けとめるかというのはそれぞれの新聞記者の感覚だったんでしようけれども、どちらもそう間違っているわけではない。我々は今回の報告書をまとめることによって、これからいよいよ事業者、JR東海や、あるいは取り持ちをしていただける岐阜県に対して、我々の委員会で考えたような方向ができるだけそれに近く実現するように働きかける過程が始まるのかと思っております。

何か今日の委員会の終わりにお話ししたほうが良いようなことを申し上げちゃいましたけれども、そういう位置づけの委員会でございますので、報告書の取りまとめのやり方どうのこうのという議論、もちろん感想を述べていただくことは一向に構いませんけれども、そういうことではなくて、さあ、これを活かしてこれからどういうことをやるべきであるかというようなことを中心に今日はお話をいただけたら幸いではないかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

ここで、4月1日付の人事異動等によりアドバイザー及びオブザーバーの方に交代がありましたので、順番にご紹介をさせていただきます。

(アドバイザー・オブザーバー自己紹介)

【司会】 ありがとうございます。

ここで資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいた資料でございますが、リニアのまちづくりビジョン（案）、A4版、1冊でございます。資料の2、リニアのまちづくりビジョン素案に対するご意見と対応、A3、3枚のものでございます。資料の3、まちづくりの理念投票結果、A3、1枚でございます。次に、本日新たに配付させていただいた資料でございますが、議事次第、A4、1枚でございます。名簿、A4、1枚でございます。5月13日付のJR東海が公開した当社が用意する中央新幹線の間駅のイメージについて、こちらもA4、1枚でございます。次に、5月14日のJR東海の山梨県の説明会に関する新聞記事、こちらがA4、2枚となっております。以上でございますが、ご確認をお願いしたいと存じます。不足はございませんでしょうか。

それでは、ここで報道機関の皆様をお願い申し上げます。写真等の撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本策定委員会につきましては、議事録を公開することとさせていただいておりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、これより議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、竹内委員長をお願い申し上げます。

竹内委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】 それでは、議事のほうは座って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今日の議題は、先ほども申し上げましたように、リニアのまちづくりビジョン（案）についてが中心でございますが、それが1つ、その後にもう一つ、今後の進め方についてという議題がございますが、それだけでございます。議事1、お手元にビジョン案はお配りいただいていることと思えますけれども、それを今から事務局にご説明いただきまして、そして、皆様のご意見、ご感想等をお聞きしたいと思っております。

それでは、議事1、リニアのまちづくりビジョン（案）についてでありますけど、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 ビジョンの修正点につきましてご説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

ビジョンの素案につきましては、1月、2月の策定委員会、幹事会、地域委員会、女性・若者委員会で提示してご意見をいただき、また、その後、書面でも、委員の皆様からご意見をいただきました。また、3月には、各地域でまちづくり協議会などの皆様を対象に説明会を開催し、あわせて、庁内の各課でも確認作業を行いました。これらのご意見を受け、前回提示した素案から修正した部分につきましては、今回配付しましたビジョン案に赤字で示してあります。本日は、その中から主なものとして、委員会が出されたご意見、各委員などから書面でいただいたご意見についてご説明させていただきます。

それでは、資料の2をごらんください。

こちらが委員会や書面でいただいたご意見とそれに対する対応になります。右に関連するビジョンのページが書いてございますので、ビジョンのほうもあわせてごらんください。

それでは、まず、①につきましては、表現の変更と地域資源の追加でございます。

続いて、②につきましては、ご意見として37ページが一番下、まちづくりの基本方針5、市民や

地域との協働による都市計画と基盤の整備を進めますについて、協力の「協」に「働く」という字の協働を使った意図は何でしょうかというご意見です。この協働の意味は、複数の主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することです。ここでは市民と地域と行政という役割の異なる2者が協力してリニアのまちづくりという1つの目標に向かって取り組むというような意味合いを込めてこちらの協働という字を使用させていただきました。

③、文中に本市の売りとして豊かな自然環境がたくさん出てきますが、豊かな自然環境というのは中津川市特有のものではなく、本市を訪れる人にとっての魅力は田舎の人の心の美しさである。田舎の人の心の美しさ、優しさの重要性を啓発して、大いなる田舎まちのうまいものですとか、良い人のいる宿、木の香り、新鮮な人などを売り込んでいくことが重要であるというようなご意見です。こちらにつきましては、62ページの4-2、おもてなしの心の醸成のところ、おもてなしを行う上で最も大切な地域資源というべき地域の人たちの優しさに触れることで、来てよかった、また来たいと満足していただくことが重要です。こういった記載を追加いたしました。

④、中津川の医療を真剣に考える必要がある。また、リニア車両基地ができるということは始発が出るまちということ、それから、この地域から輩出した多くの人から魅力を掘り起こすことが重要である。こちらにつきましては、まず、地域が輩出した人を活用した魅力の掘り起こしにつきましては、57ページの固有の歴史文化の活用、本市ゆかりの文化人などを活用した観光誘客、61ページの情報発信と売り込みに本市出身の著名人を活用した情報発信について記載しております。それから、医療につきましては、73ページの10-1、安全・安心な生活環境の整備に医療の取り組みについて、車両基地の利用については105ページに交通結節点のメリットを生かした駅周辺居住の考え方などについて記載しております。

⑤、6章の基盤整備関係の各項目について、語尾が、検討していきます、取り組みますというような表現になっているものと、例えば駐車場などについては、整備しますという断定的な表現になっているものがある。整備しますとしたものについては、整備するという断定的な意思表示と解釈してもいいかというようなご意見です。語尾の表現につきましては、事業主体の違いですとか、規制など住民合意の必要性の有無などにより使い分けております。現時点では各事業の事業主体も明確ではないため、市としてつくるつからないということにははっきり言えませんが、断定的な表現については機能的に特に不可欠なもので、何らかの形で整備する必要があると考えております。

⑥、6章、基盤整備の国道19号の今後の機能強化として、落合以北の4車線化、安全対策を明記すべき、19号を補完する道路として木曾川右岸道路の整備を明記すべきといったご意見です。こちらの道路につきましては、市が事業主体として実施するものではなく、関係機関との十分な調整等が必要なため、ビジョンの中に明記することはできませんが、国、県等の関係機関、関係市町村と連携して事業の促進に取り組んでいきたいと考えております。

⑦、駅やその周辺に必要な機能について、できるだけ地元資本を取り入れられるよう、PFIなどの事業方式を考えておく必要がある。こちらにつきましては、100ページ、101ページの6-2、リニアのまちづくりの顔となるリニア駅と駅周辺の中に、PFIなど民間の資金やノウハウを活用した公共施設等の整備、都市計画等のルールに基づく民間活力を活用した秩序ある企業用地、住宅用地の整備についての記載を追加しております。

1枚めくっていただきまして、⑧、6章の駅や駅周辺の地域づくりのところで、コンパクトな商業機能や駅前居住についてどのぐらいの規模とするのが課題である。大きな話になりがちで、不良債権の話も出てくるので、慎重に対応していく必要がある。こちらにつきましては、104ページの6-2、リニアのまちづくりの顔となるリニア駅と駅周辺の中に交通結節点に特化したコンパクトな商業機能、交通結節点としてのメリットを生かした駅周辺居住について基本的な考え方を示しました。具体的な規模等については、この方針に基づきまして今後検討していきたいと考えております。

⑨、土地の手当てに対して行政は事業者との間をどう取り持つか、そのあたりの取り組みをもう少し書き込む必要がある。こちらにつきましては、107ページの③用地確保のための手法に、代替用

地、家屋の移転用地等を確保することにより円滑な事業推進を図るとともに、移転される方が納得できる移転先の確保について市が率先して取り組んでいくこと、それから、113ページの(1)リニア建設に係るJR東海などへの対応に、JR東海によるリニア関連用地の取得に当たっては、地権者のご理解とご協力がいただけるよう協議の場の設置や建物移転の用地を確保するなど、円滑な事業推進に努めること、こちらの記述を追加いたしました。

⑩、こちらは一番たくさんご意見をいただきましたが、ビジョンを実現するための具体的なスケジュールですとか、関係機関、住民との連携、行政組織や体制など、具体的な記述が不足しているといったようなご意見です。こちらにつきましては、まず、111ページの7章、今後の取り組みにビジョンの実現を強力に推し進めるための行政組織の充実、行政、民間が協力してしっかりとした推進組織を立ち上げること、隣接する恵那市をはじめとする周辺地域との連携の重要性について記述を追加いたしております。また、各分野におけるビジョンの実現に向けての工程については、114ページからの工程表に示しておりますが、工程表を取り組みの種別に分け、各事業の流れがわかるように修正をいたしました。なお、これらを進める上で必要なより具体的な組織案、連携方法、各事業の進め方などについては、本ビジョンの次のステップとなる分野ごとの具体的な計画立案の中で検討し、まとめていきたいと考えております。

⑪、119ページ、プロジェクトの関連図において、取り組み方策と各重点プロジェクトの関連性が不明確、各取り組み方策がどの重点プロジェクトに含まれるのか体系的に整理したほうがいい。こちらにつきましては119ページの関連図を変更し、施策展開イメージと重点プロジェクトの関連性を示す図に変更いたしております。

⑫、利権の排除、暴力団との根絶宣言、東北大震災の復興をめぐって悪いうわさを現地に行った人が耳にしました。どこかに記入をというご意見でしたが、ビジョンの中に記載することは行いませんが、基盤整備を中心に大規模事業を行う上で当然必要な取り組みとして進めてまいりたいと考えております。

それから、もう一枚めくっていただきまして、その他のご意見、ご感想ということで、こちらは直接的なビジョンの修正に関するご意見の他に基盤整備やこれからの取り組みに関するご意見、ビジョンの感想などについてたくさんのご意見をいただきましたので、紹介させていただきました。

続きまして、資料の3とビジョンの35ページをごらんください。

35ページの四角の枠の中になります。当初、キャッチフレーズとして検討を行い、さまざまなご意見をいただきましたが、ここに記載するフレーズについて再度あり方を検討した結果、対外的なPRに利用する、いわゆるキャッチフレーズ、キャッチコピーとしてではなく、ここに書いてありますまちづくりの理念を一言でわかりやすく説明するような理念の見出しとして検討し直すこととさせていただきます。委員の皆様よりいただいた候補について投票を行った結果が資料3のほうになります。一番人気がありましたのが「リニアのホームタウン“なかつがわ”」、2番目が「水と緑とリニアのまち」というような結果になりました。これを受けまして竹内委員長とご相談させていただきました結果、ビジョンの35ページに示しておりますこの2つを合わせた「リニアのホームタウン水と緑の“なかつがわ”」ということで、5月8日の幹事会、それから、本日の策定委員会にご提案をさせていただいております。

また、その下の説明文につきまして、「日本の真ん中 訪れてよし・住んでよし」としておりましたところを「日本の真ん中 訪ねてよし・住んでよし」にしたほうがいいというようなご提案をいただきましたので、こちらでも変更させていただきました。

また、本ビジョンにつきましては、本日の策定委員会でのご意見などを受け、修正を行った上で、6月3日から21日まで、広く市民の皆様のご意見をお伺いするためのパブリックコメントの募集を行いたいと考えております。なお、パブリックコメントの結果につきましては、委員の皆様へ送付し、ご確認いただいた上で一般に公開したいと考えております。

**【事務局】** それでは、若干補足説明をさせていただきたいと存じます。

5月13日のJR東海の関係資料をごらんください。当社が用意する中央新幹線の間駅のイメージについてというものでございます。

本ビジョンの第6章の基盤の関係で関連が出てまいりましたので、少しご説明をさせていただきたいと思えます。

今回、JR東海さんから示された内容といたしまして、こういった外観透視図をはじめ、駅のJR東海さんとしてお考えになっておられるそういった構造というものがビジュアル的にははっきりしてきたというところでございます。

基本的な考え方としましては、昨年の23年度時点で既に費用負担問題、これをJR東海さんが全額負担するという段階で駅については機能最小限ということで、地元等の要望のあるものについては地元の負担によりつくってほしいと、そういった基本的な考え方が示されておりまして、そんなに新しい情報として私どもは受けとめておりませんけれども、こうした形ではっきりお示しいたごことは、今後、いろんな検討の中で私どもが具体的にやりやすくなったなという印象を持っております。基本的には、運用面を含めて大胆に効率性と機能性を徹底して追求したコンパクトな駅というようなコンセプトでございます。コンパクトな駅というところからいきますと、私どもの駅前広場、そういったところのビジョンで示しておりますコンパクトな整備、そういったところとも整合するものと考えております。

斜めの外観透視図の下にその考え方が具体的に書いてございますけれども、周辺の土地利用の状況から適切な環境対策、明かりフード、または防音壁等を施すということでございます。それから、地下駅は除きまして、その下の地元等の必要に応じて整備する施設については、地元等の負担を前提に相談の上、検討していきますということでございます。

それから、階段、エスカレーター等、透視されている高架下部分、下に透視図がございましてけれども、ここ以外のところの高架下部分についてはJR東海さんの使用部分と、地元等の賃借可能部分ということでございます。実際の対応に応じて調整の上、必要な外装を施すということが示されております。

2ページをお願いいたします。

今ご説明させていただきました具体的な高架の1階部分、斜線の引いてある部分というのが地元等の負担で希望する施設があれば協議ができるというところでございます。

断面図につきましては、これまでも説明をされておったものでございますし、それから、真上からの1階の拡大図というところでございます。入出場口は1カ所で、階段、エレベーター、エスカレーターでホームに連絡するという形になっております。

ここで、私ども、ビジョンの中では大体2階でというような、乗り継ぎ利便性を考慮して、例えば在来線駅と連絡通路で結ぶとき、連絡通路を2階にしますと2階同士で移動できることで1階に降りてまた上へ上がるといった垂直方向の移動というのが少なくなります。そのような考えで連絡通路は2階というようなイメージをしておりますけれども、こうした形で入出場口が1階ということでございますので、連絡通路でありますとか駅前広場などのデザインというのは、2階だけでなくいろいろな可能性を考慮して、駅の設置場所の地形や条件に応じて検討できるかなというのが私どもの考えでございます。

それで、ビジョンの中でこうした内容が決定的に何か影響を与えるとは思っておりませんが、事前配付させていただいた資料の100ページをご覧くださいと思います。本日、傍聴の皆様配布させていただいたものからは削除してあるものですから、ちょっとご覧いただけないと思えますけれども、リニアのプラットホームのイメージ図というものがございまして、木質系の天井とガラスで構成したような図になっておりますが、これは、現在の整備新幹線の駅を参考に中津川らしさを加味したイメージでつくってみたいところでございますけれども、今回、JR東海さんから公表されました駅の概観図を見ますと構造的に大きく異なります。外観については必要に応じて外装を施すというようなご説明もありますので、101ページにあります駅の外観図につきましては、こういったイメージで

も問題はないと思いますけれども、プラットホームのイメージ図につきましては、市民の方々にイメージしていただくときに、実際にできるものが私どもの作成した図とかなり異なったものになる可能性が高いという点を考慮し、最終案のところからは削除していきたいと考えております。

以上でございます。

**【委員長】** それでは、説明は以上のようにございますので、ビジョン案全体を通しまして、あるいは今最後に事務局から補足説明がありましたJR東海が発表いたしました駅部分の構造イメージなんかとのすり合わせ、関連性というようなことで何かご意見、あるいはご感想等をお聞かせいただければ結構ではないかと思いますが、まずは何かご質問、あるいは特段のご意見のある方はいらっしゃいませんか。まず最初に、ご質問がありましたら、それを承りたいんですが、それはよろしいでしょうか。大分前からこのビジョン案については皆さんに見ていただいて、なおかつ、今ご説明いただきましたように、前回の委員会、あるいは委員会の後に出てまいりました意見について丁寧に対応表をつくっていただいて説明のあったところがございますので結構かと思いますが、それにつけ加えて何か質問はございませんでしょうか。よろしいですか。

それじゃ、ご意見、この取りまとめに関してご意見のある方、あるいは今の補足説明についてご意見のある方がいらっしゃいましたらお聞きいたします。いかがでしょうか。

今の補足説明について私のほうから1つお聞きしたいことがあるんですけど、このイメージというのはJRのほうはどういうつもりで出したのか。これ、全部共通ということですかね。中間駅共通ということでしょうか。甲府で話をされておりますので、甲府は在来線との乗り換えを一切考慮しないでいいところなんですよ、あそこは。ですから、中津川なんかの場合には今の下まで降ろすか、2階でつなぐかというあたりのところは、このイメージとは変わってしかるべきだと思うんですね。説明の中でそういう留保がついていたのかどうか、ちょっとそこを聞いた方はいらっしゃるんですか。

**【事務局】** これは、報道でも基本的な共通的なものとして扱われていたように思います。地下駅、地上駅というものがそれぞれ出されており、ここに書いておりますように、実際に応じて、それぞれ駅の条件、そういったものに応じていろんな形で個性が出てくるのかなというふうに受けとめておるところでございます。

**【委員長】** 私は、今の1階に降ろしてしまわないでという点については、こちらから岐阜新駅の場合にはまだ主張していく余地があると考えたほうがいいのではないかと考えておりますので、今そういう補足的な質問をさせていただきました。

他にございませんでしょうか、何か。

今度、多治見で説明会があるんですよ、25日でしたか。そこでまた全く同じ図面を出してくるのか、少し変わってくるのか、そのあたりは感触はどうですか。

**【事務局】** 私どもには特にそういった情報はございませんけれども、基本的には同じような資料が出されるんじゃないかなというふうに推測をしております。いろんな質問等につきましては、やはり地域の状況等もいろいろとありますので、変わってくるかなと思いますけれども、資料的には同じものを使われて説明されるんじゃないかというのが私どもの見方でございます。

**【委員長】** いかがでしょうか。何か、手を挙げてご意見をいただきます、といってもなかなか手が上がりませんので、こちらから指名させていただいてよろしいですかね。ご感想でも結構でございますし、それから、今後の対応について何か考えておられるところがあれば、そんなところの指摘でも結構かと思えます。

まず、地域委員会、女性・若者委員会を担っていただきました方の中からそこの活動のご報告も

含めてご発言いただけたらと思うんですけども、まず、委員、いかがでしょうか。

【委員等】 私のほうは村づくり協議会が全ての村のスタッフを入れて検討しておりまして、その中で特に商工会の青年部の人たちが非常に熱心に何度も会議を重ねて案もつくってくれたりしまして、際立って特別な意見はございませんが、常識的な意見になったと思います。

それで、私、ここから40キロですので、ここまで来るのに40キロあるわけですけども、ここができることによって今までと画期的に革命的に変わった環境に置かれるのを非常に期待しております。駅の前のお店の店主のお話を聞くと、ここはもう全部、中津はストロー現象になっちゃうよ。だから、もう中津にはもう人も来んし、おらんしということになっちゃうという話をしておりましたが、私はそうは思っておりません。1時間足らずでもって東京へ行ける、あるいは来られると、そういう物理的な感覚だけでも非常にもう日本の山奥のほうにおるんじゃない、中心におるんだということで、これからリニアの事業も、あるいは生活も、あるいは文化もこの地域で立派に先進的にやっていけるというふうに非常に大きな夢と希望を持っております。そんなところです。

【委員長】 ありがとうございます。  
それでは、委員、お願いします。

【委員等】 このビジョンを見させていただいて、女性の考え方、若者の考え方というのがかなり散りばめられて内容的に入っているなというふうに思っております。

あと、先ほど委員長さんが言いました今後の進め方、この実現をどういうふうにしていくかというところがこれからの課題かなと思っておりますので、実際に私たちが出した案が入っているんですが、どういうふうに進めていったらいいのかなというのがこれからの課題だと思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。  
それじゃ、学識委員のほうからも少し感想を聞きましょうか。  
まず、副委員長、お願いします。

【副委員長】 本当に中津川の中でリニアのまちづくりのビジョンを考えるということを初めてこの機会に住民の皆さんが考えるきっかけになったというか、触れるきっかけになったということがまず良かったなというふうに思っております。

その形、いろんな意見が出たものがたくさん入っておりますし、今、委員もおっしゃっていただきましたけれども、やはりこれからこの出てきた意見、このビジョンをどうやって実現をしていくのか。それは課題も多いんですけども、課題を解決するのはやはり私たちしかいないというか、住民の方々がやっていくしかない。もちろん1人でやっていくわけではないので、本当に地域全体、岐阜県全体で、あるいはもっと広い、より広い地域全体でみんなで協力しながら一歩ずつでも着実に前に進めていくということが非常に大切なので、せっかくこういうビジョンに、皆さんが夢を思い描きましたので、これの思いをぜひぜひ実現できるんだというか、決して絵に描いた餅ではなくて、これはやっぱりやっていかななくてはいけないですし、やっていきたいというふうに皆さんは最初思われていますから、いろんな困難があるかもしれませんが、やっていくという、そういうスタートによやく立ったというか、そんな気がしています。

ここからできるまでにはまだ時間がかかりますけれども、でも、もう着工は間近になっております。将来の夢を描きながら、着実に中津川らしいまちを保ちながら発展していくといいなというふうに思っております。

以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。

じゃ、委員、お願いします。

【委員等】 私のほうも、もう既に今まで副委員長や委員等がおっしゃられたことと重なる部分かなりあると思うんですが、今回、このビジョンというのは非常に幅広い年代、若者、女性、そして、中津川はかなり広域になっているんですが、各地区の状況に合わせた資源だとか、いろんな取り組みというのもご紹介されていて、非常に内容が濃く、時間としてはかなり短時間だったにもかかわらず、いい内容になったのかなというふうに感想を持ちました。

その一方で、次の課題にもなるのかもしれませんが、やはりこのビジョンを活かして今後どういうふうに進めていくのかということが少し重要なこれからの課題になっていくと思います。それに当たりまして少しご紹介させていただきますが、もしかすると皆さんは既にニュースでご存じかもしれませんが、実は山梨県のほうで東京、首都圏も含めてリニアの認知度がどれぐらいかということを含めて実際にアンケートをとったものがございます。先ほど委員のほうからご紹介があったんですけども、中津川に来る前、首都圏ではあまりその動きのことを知らなかったということをおっしゃられていましたが、実際に山梨県においてリニアが開業することを知っていたというのは首都圏では47%になっております。なおかつ、甲府一品川間、25分を知らないと答えた都民は7割を超しているという結果になっています。ということは、この結果はほぼ同じく岐阜県中津川市にも当たる結果だと思いますので、今後、まず第一に、こういった中津川の中から今度は外に発信していかなくてはいけないという部分での重点的な課題ということと、もう一つは、県が発信する情報に関しても山梨に関してはまだ比較的首都圏が近いということもあるので、いわゆるキャッチコピー等も観光に関しても認知度が47%程度になっているという結果があるんですけども、中津川の場合は首都圏も含めて名古屋圏という部分もありますので、そのあたりに対しての広報活動というのも1つ課題になってくると思います。

もう一つご紹介させていただきたいのは、アンケートの中では山梨県に移住する条件を都民に尋ねていったところ、トップ回答というのが豊かな自然と美しい景観というのがトップ回答で、その部分というのが非常に高くなっています。ということで、そのあたりもやはり同じく中津川にも通じるものがありますので、今回は中からまとめたビジョンということですので、次には今後取り組みを進めるに当たり、外から見た中津川という視点も考えながら取り組んでいくことが必要なのかなというふうに思いました。

【委員長】 どうもありがとうございます。

それでは、アドバイザーの方に、特に今日は新任でアドバイザーになっていただきました方もいらっしゃることで、このビジョンの取りまとめを見ていただいた感想といったようなことで少しご発言いただけたらと思いますけれども、じゃ、委員、お願いできますでしょうか。

【委員等】 座ったまま、失礼します。議会の議員のほうは2月の終わりにこの素案の段階で説明を受けました。大まかなことが理解でき始め、その後の地域での懇談会のところへも一緒に入っているように進めているということで、委員全体の説明の中では、今、先生方が言われたように、これをどう取り組んでいくかと、また、もっと極端なことを言いますと、市の財政等も考えたときにこの財源等をどう考えていくかというようなことも後の感想なんかでは話はしておりました。あと、このことを先生方がアドバイスされたようにどう広めていくかということが本題ではないかなということを感じております。

【委員長】 ありがとうございます。



それでは、委員、お願いいたします。

【委員等】 先ほどは、私、ちょっと失礼な言い方だったかもしれませんが、東京にいたときは全然知らない。まさにお話があったように、そういう意味からしますと、やはり外に対してどうやって知ってもらうのかというのが1つの広報の在り方としてあるのだろうというふうに私も考えております。

それで、本当に開通すると10分で名古屋までですかね。10分というのはもうあっという間のところでありまして、そういう意味からすると大都市圏である名古屋とのかかわりというのが大きく変わってくるんじゃないかなということで、やはり首都圏、それから、中部の都市圏に対してもいろんな影響が出てくる。あるいは、中津川としても享受するということになるろうと思いますので、ある意味、そういった広報活動というのはこれから早め早めにいろんな形でやっていくということが必要だろうというふうに感じております。

ビジョンの方はまたいろいろ読ませていただいて、私どもの事業所の中でも、いろいろ広報とか、我々の従業員の意見も出てくるという形にもしていきたいというふうに思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員、お願いいたします。

【委員等】 工場長は本日欠席のため、代理で出席させていただいております。よろしく申し上げます。

私、中津川のほうへ転勤してまいりまして1年ちょっとになります。それから、中津川のこういうリニアの取り組みというのは1年間見てまいりましたけれども、中津川にリニアが来れば、うちの会社のことを考えますと、やはりうちの会社の取引先、売るほうも買うほうもお客さん方が工場にいらっしやいます。特に売るほうのお客様が近くに来ていただいて、工場に来やすくなるというのがすごくメリットになるのかなと思っております。そうすれば、そこでビジネスのチャンスももう少し広がるのかなというのを期待しているところです。

それと、あともう一点、個人的に思っていたんですけれども、今東京の本社、以前勤めていたときもありますけれども、新幹線通勤というのが北は宇都宮あたり、東海道新幹線だと静岡あたりから東京へ毎日通勤しているということがこのリニアになるともっと距離が広がって、中津川から東京というのは、コスト的な面もありますが、1つの東京の通勤圏内になるのが魅力かなとは思っておりますけど、コストの問題が出てくるが、そのあたり、できたらいいなというのは私的には思っていました。

以上です。

【委員長】 どうもありがとうございました。

今、各委員会の委員長さんと、それから、学識委員と、それから、アドバイザーの方々にご意見、ご感想を述べていただきましたけど、ここまでお聞きしたところで他の委員の方、ご発言のある方はいらっしやいませんか。

【委員等】 リニアの駅ができます地元で区長を務めさせていただいております。2点申し上げます。

まず、このビジョンの案につきましては、非常に完成度が高くなってきておりまして、ほぼ直すところはないのではないかなというふうに思っております。ただ、1点だけ申し上げますと、この駅の構造が長さ1キロにわたって、作りかけの東北の防潮堤かなど。あるいは、はたまた河口堰みたいなものが現れる訳でして、このイメージと100ページ、101ページのイメージとは大分違うなとい

うふうに思わざるを得ない訳です。従いまして、こういうものが現実であるならば、高架下をどのように加工して地元として魅力あるものにしていくかというイメージがほしいなというふうに思っております。

J R東海の5月13日付の資料を見ますと、高架下部分は当社の使用部分及び地元等の賃借可能部分というふうに書いてありまして、こんなガード下みたいなどころをお金を取って貸すのかというのが地元の住民としての率直な意見でして、商業施設か何かをつくるのであればともかく、駐車場か倉庫にしかならないようなところは無料で開放してくれてもいいんじゃないかなと。ちょっと乱暴かもしれませんが、そんなふうに感じております。

それから、2点目は地元の雰囲気、ビジョンとはちょっと離れますけれども、現在どういうものかということをおそらくちょっとだけ触れさせていただきます。

地元の今の最大の関心事は、毎日のように上空にヘリが飛び交っております。何のヘリかはよく分かりませんが、不動産業者とか、もうJRのアセスは終わっている訳ですので、そういったようなものかなというふうに想像できるわけです。そういったことも踏まえて、地元の最大の関心事としては路線がどこを通るか、それから、総合車両基地がどこに落ち着くか、あるいは、かなりの規模のガイドウェイ工場はどこにできるのかと。それから、そういったものに対するアクセス道路はどこを通るのかなということが大変皆さんの関心が強いわけです。そういった中で秋に正式発表と言っておられるんですけども、秋なんかはすぐ来ちゃうわけですが、それでも、やっぱり1日でも早くこれを示してほしいというのが地元の雰囲気です。無理かもしれませんが、率直な地元の声としてその点を強調しておきたいと思っております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。

他にいらっしゃいませんか。

皆さんに順番にお話させていただくわけにもいかないのですが、あとお一人、二人、手が挙げればと思っておりますが、いかがでしょうね。今の委員のお話、特にJRが13日に発表したこの写真みたいな、図面みたいなものは本当にそういう感じですよ。えらい柱が太いんですね。やっぱりこのところの地震の影響でしっかり出来ているのを感じます。今その印象を指摘していただいたのは非常に結構で、外装をどうするかというあたりはまだ検討の余地がある、あるいは提案の余地があるということでございますので、そのあたりは本当に考えていかなきゃいけないことだと思いますね。

他にございせんか、ご意見。

【委員等】 開通したとして、どのぐらいのお金で行けるのかなと。誰も乗れんような高いものなら何の価値もなくなりますが、本当に庶民がずっと東京まで行って来れるというような、そうすることによって行きも出来るし来ることも出来るというような、そういうものにしてほしいなと。今、新幹線で、中津から名古屋へ出て、そして、東京まで行ってくると往復で2万7,000円ぐらいかかるんですかね。結構かかるんですよ。それよりもっと高いなんていうことになると、そう簡単に、通勤どころの話じゃなくて、一生に一度行けるかのようなお金になっちゃうので、もっとどんどん公共の足として行けるようなものにしてほしいなということをつくづく思います。

というのは、今、高速道路がそうですが、トラックは夜昼構わず下道をどんどん走りますけど、採算が取れんので下道を走るんですが、あれをもっとトラックの通行料を高速道路をずっと3分の1にも4分の1にもすれば、高速道路をトラックが走って、そして、非常に日本のいろんなことの効率が良くなるわけですが、運賃が安いところへもってきて高速道路が高いものですかということを見ていると、もっと同じものをつくっても国としてプラスになるというような、そういうところまで考えてほしい。JRは今民間ですから、その辺を大変心配しております。

以上です。

【委員長】 その件に関しては、正確なものではありませんけれども、若干の情報は入っていると思いますので、ちょっと説明していただけますか。

【事務局】 今、乗車料金につきましては、公式的な見解というのは開業までまだ14年もあるということで示されておられません。ただ、国の交通政策審議会の議論の中でいろんな需要予測、そういったものを形成される中で、開業時に、今の物価水準とか、そういったものもあるんでしょうけれども、基本的にはのぞみの指定料金にプラス1,000円で東京－大阪間をというような1つのお話が出ております。そうしますと、今、中津川というのは名古屋を経由して、営業距離数でいきますと四百数十キロというようなことになってまいりますけれども、今度は名古屋間が286キロ、それから、中津川から名古屋まで60から70キロぐらいあると思いますので、そうしますと、差し引き220キロ程度かなと。そうなりますと、少なくとも名古屋－東京間の金額は今の現行料金よりも大体似たりよったりのところになってきますので、消去法でいきますと安くなるのかなという観測はしております。JR東海さんが「そうなる」とは一言も言っておられませんけれども、そんなに高いものにならなければいいというふうに思っておるところでございます。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。  
他にご発言のある方はいらっしゃいませんか。

【委員等】 1点だけよろしいですか。済みません、ちょっと言い忘れたんですけど、この2027年のときにこれが本当に開通する訳でしょうけれども、そのときに1つ想像すると外国からのお客さんというのが随分訪れるんじゃないかなと。今でも、円安であちこちに日本にお見えになる方が多いということですが、2027年が幾らになるか分かりませんが、リニアが世界でまずこしかないうことになるわけですから、ぜひ乗ってみたいということも含めて、想像以上の外国の方がこの年あたりには来られるんだろうと。

ビジョンの中には少しずつ見えるんですけども、いろんな英語のサインとかなんとかということも書かれていますけれども、おそらく今以上というか、ここで書かれている以上に、英語のみならず、中国、韓国、そのころになると今の新興国も生活水準も上がって、いろんな方々が来られるだろうということを想定すると、この中津川周辺を挙げてその対応力というか、そんなものかなり上げておくべきじゃないかなというふうに感じていたことをちょっと申し上げるのを忘れてしまったんですけども、その辺でいろいろお土産を売っている方も英語はかなりしゃべれないといけないかもしれないしというあたりもちょっとどんなふうなお考えがあったりしているのか、私、十分存じ上げないまま言っているかもしれませんけれど、ちょっとその辺についてのコメントをさせていただこうと思いました。

【委員長】 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さんのご発言の最後ということで、副委員長さんに順番にご感想、ご意見を承りたいと思います。こちらの副委員長はもう先ほどお話をいただきましたので、それでは、ご着席の順にお願いしましょうか。

それじゃ、まず、そちらの副委員長からお願いいたします。

【副委員長】 ランダムにちょっとお話をさせていただきたいと思います。

中津川商工会議所リニア推進においてリニアの見える丘公園というものをつくっていききたいという夢というか、展望といいますか、こういうものを進めておるわけでありまして。JRの発表を見ますと

みんなフードになってくるおそれがあるんですね。坂本に出来た駅から車両工場へ行くリニアがゆっくり走る。いや、スピードのあるリニアを見たいなど。先ほど委員のほうからしっかりした意見を出していただきましたが、ぜひこれから委員が前向きな建設的なきつい意見をおっしゃっていただくことが最も中津川のためになるのかなと、こういうふうに思っております。

それから、手戻りのないリニアより半歩前へ行ったまちづくりを進めていかれたらいかがでしょうということで、私が最近思うのは、リニアが来るからまちづくりのこういうものを、もうちょっと待とうよという形でリニアが「先送りの枕言葉」になるおそれを非常に感じておる1人であります。そういう意味で、先送りの枕言葉にしないように、半歩前へ出たいろんなことを進めていかなければいけないなど、こんなふうに思っておるわけであります。

それから、3月の終わりだったと思いますが、中津川、恵那、両市の市長さんと商工会議所の幹部との懇談会を行いました。そこで病院の問題やいろいろなことを議論の対象に上げようと思いましたが、ついに病院の問題も俎上に乗せることができませんでした。そういう中で、やはり中津川と恵那がしっかりした連携、青山市長も連携をということをおっしゃっておられますが、連携を県の仲添えもあるかと思いますが、それはそれとして、委員長も恵那のビジョンづくりにもお関わり合いをお持ちですから、こちら辺りでもう、しっかりと事務レベルが連携を取るということ、道路問題など、両市が結束をしていかないといけないと、こういうふうに思っております。くどいようではありますが、リニアを先送りの枕言葉にしないように、皆さんと知恵を出し合って行動に移していかなければいけないと、こんなふうに思っております。

もう一つ、ちょっと古い話というか、この連休に蒲原へ参りました。蒲原宿には志田家がございまして、そこをちょっと視察してまいりました。その志田さんのお話をいろいろしておりましたが、中津川の市会議員というのは立派な方がたくさん行動的に動いておられたなど。昔の市会議員、結構頑張っておったなどということを過日お話の中でお聞きしましたので、市会議員の活動も敬意を表して、ご報告をさせていただきました。

もう一つ、最後ですが、先ほど委員から外国人の問題が出ましたが、過日、ある方がこのまちへ訪ねられました。「しなの」で降りられたときに外国人がいっぱい降りると。あの人たちはどこへ行くんですかという質問がございました。その話を市の部長ともお話ししまして、このこともいろいろ探っていかなければいけないということで、この人たちに今インタビューを始めております。その結果、その方がおっしゃるには、あの中にとてつもない方たちがいるはずですよと。5%か1%か10%か分からないが、とにかく名前を聞いただけでびっくりするような方がおるはずだから絶対調べてくださいと、こういうことをおっしゃっておりました。まちづくりも一緒にしたいというふうに思っております。

以上です。

**【委員長】** ありがとうございます。

それじゃ、続きまして、次の副委員長、お願いします。

**【副委員長】** 私は、今回、リニアのビジョンにつきまして見させていただき、内容についてはまだ具体性に欠けるところがあると思うんですが、それぞれ委員の皆様方は今日ここには本人がお見えになっていますが、その傘下には多くの皆さんがおられて、その意見がここに集約されてきていると思うと、このビジョンというのは非常に重みがあると、私はこんなふうに思っています。

その中で、特に私は、一昨年6月9日にリニアがこの中津川を通り、駅をここにつくるんだと、こういう公表をされました。そのときにリニアとは何ぞやと。どんなふうになるのと本当にアバウトな情報だったような、わずか2年前なんです。それが今回のこのビジョンづくりの策定委員会の第1回目が去年の6月、それからここへ来て今回この駅のイメージというのがここに出されて来た。その間にもこの策定委員会の中で駅の駅前広場だとか、駅のイメージについていろいろ事務局のほうから

も提案がありました。そういうものが具体的に今回JRから出されてくると。そうすると、だんだん具体化、いよいよ本格的になって来たなど、こんなふうに思いますし、これはまた秋の路線、また、駅の正式な位置が決定するとこれがさらに加速するだろうと、こんなふうに思う訳です。それに伴って、また、アクセスの問題、今、副委員長のほうから話がありましたように、もっと広域で連携をするような方法等々のこれから今までこの2年間に起こったこと以上にもっと大きな変化がこの地域に起こるだろうと、こんなふうに思う訳です。そんなときにやはり我々は戸惑ってはいけない。しっかりと先を見据えていくという意味にはこのビジョンというのは大変大事な役割を果たすだろうと、こんなふうに私は思っております。

先ほど、手戻りのない、また、一步先をとというお話、まさしくそのとおりで、私どもはこんなビジョンという部分を大事にしながら、これから起こるだろうこの地域の変化というものにしっかり対応していきたいと、こんなふうに思いますし、また、そのためには後ほどまた会議の中にも出ておるようでございます。議題に上がっているようですが、今後どのようにこれに取り組んでいくかと。実現に向けてどうあるべきかと、こんな話がされるような予定がありますが、今度はこの大事なビジョンというのが策定されれば、これをいかに具体性を持たせてどうやって進めていくかということが次の大きな課題になるかと、こんなふうに私は思っております。

本当の感想だけでございますが、以上でございます。

**【委員長】** ありがとうございます。  
もう一人、副委員長、お願いいたします。

**【副委員長】** リニアのまちづくりビジョン、今のところ案でございますが、大変多くの皆様にご協力いただき、こうした形で行うことができました。事務局側といたしまして厚く御礼を申し上げます。いろいろご指摘をいただいております。このビジョンをいかに具現化していくか、これが私どもの役割と痛感しております。これから総合計画をつくってまいります。総合計画実施計画の中でしっかりまちづくりビジョンと整合性を図りながら取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

若干紹介をさせていただきます。先日、商工会議所の副会長さんと一緒に金沢のほうへ行ってきました。金沢市は北陸新幹線、2015年春に開業ということで、急ピッチで駅前広場の建設を進めてみえました。そんな中で金沢市の副市長さんとお話をさせていただきました。中津川にもリニアの岐阜県駅ができますという説明をさせていただきました。そうしましたら、私はよく馬籠のほうへ行きますので知っておりますといったことで言っていただきましたので非常にありがたく思いました。さらに、金沢市は「新しい金沢、はじまる。」というロゴ、キャッチコピーというようなものをつくって見えました。これを全職員、それから、関係の皆様が名刺で使ってみえるということがございまして、相当前からこれを宣伝してみえると、コマーシャルしてみえるというお話を伺いました。

もう一つ、中津川市は長崎県の対馬市と姉妹提携しておりますので、そちらのほうで挨拶の中で中津川市に2027年にリニア中央新幹線の岐阜県駅ができますと言いましたら、みんな、へーっという感じで誰も知りませんでした。これほど知名度がないといえますか、知られていないということを感じました。これからしっかりとロゴ、キャッチコピー等を使いながらコマーシャルをして、まさに訪ねてよし、住んでよしの中津川にしたいと、そのように考えておりますので、今後ともぜひご支援等賜りたいと思います。ありがとうございました。

**【委員長】** ありがとうございます。

私も最後に少し感想を述べさせていただきます。私、このまちづくりの理念のキャッチフレーズ、私も幾つかこの中で提案させていただいたものがあるんですが、そういうのも全部まとめて委員の皆さんのいわば人気投票をやってみようという話になった。結果がどう出るか大変楽しみにしております。

した。結果的にトップになりましたのが「リニアのホームタウン“なかつがわ”」、これは総合車両所ができる。リニア新幹線の車両が毎日帰ってくる場所がここにあるんだぞということで、ホームタウンというのはとてもいいじゃないかと、こういうことで、もちろん結構でございます。けれども、ただ、この発想の中から私はちょっと保守的な感じが強いなと、こう思った訳であります。つまり中津川の方たち、やはり自分たちのまち、決して住みにくくないいいまちだと思っておられるからでしょうね。これでいいじゃないかと。だから、リニアができることであまり大きく変わってほしくない。いいところ、良さをこのまま残していける形で行きたいなというような感じが強いのかなと思ったんですね。この際、もう少し外にアピールできるまちとして、せつかくこういうリニア新幹線の駅ができるわけでありますから、そういう意味からいくと、外の地域に向かってもう少し中津川というものを表現できるような姿勢に、この際なってほしいなと思った訳であります。

そこで、まちの良さを外にアピールするという意味からいくと、ちょうど2番目に「水と緑とリニアのまち」というのが入っておりましたので、この「水と緑と」というのをつけ加えて、先ほどご紹介があったようなキャッチフレーズにさせていただいたんですね。1番と2番と一緒にしましょうよということです。短いほうがいいというご主張もあったけど、しゃべってみて長くないから2つ一緒にしましょうよと、こういうことにした訳であります。

話がちょっと飛びますけれども、先日、飯田市の市長さんと懇談する機会がございまして、飯田市のまちづくりのキャッチフレーズが「小さな世界都市、飯田」というのがあるんですね。このキャッチフレーズは市長さんがお作りになったんですか、それとももっと前からあるんですかという話を聞きましたら、私がつくったんじゃない。けれども、リニアの話が起こってきたときからこれにしたんだと。小さな世界都市というのは私も大賛成で、もちろん飯田に住む人が増えてほしい、人を呼んできたい、移住、転入人口がほしい、それはそうなんですけれども、ここで育った人たちが一度外に出てほしい。外に出て、それは日本国内にとどまらない、世界に出て行ってほしい。外に出ていくと自分の郷里の良さがわかる。良さを理解してからもう一度この地域に戻ってきてほしい。そういう人で構成されるこの地域というのをつくりたいんだと言っておられたんですね。リニアを機会に、あその場合はリニアだけじゃなくて、三遠南信道という自動車道のビッグプロジェクトもありますけれども、そういうので「小さな世界都市、飯田」ということで行きたいんだと説明しておられました。もちろん各地域の人々の気質、市民気質というのは違いがあつていい訳でありまして、それなりにその地形、文化、伝統に応じた市民気質があると思いますが、しかし、お隣の駅でも同じことを考えてもこれだけ違いがあるかなということも思ったんです。

まねをする必要は全くないと思います。しかし、そういう意味からいくと、前にも私はここでお話をいたしましたけれども、ここの地域に住む人を増やす、それは大事なテーマであります。出ていく人よりも入ってくる人が多くなれば地域の住民は増える訳でありまして、出ていくことを抑えるというのかな、守りの姿勢で閉じこもってしまうというような地域づくりはやっぱりこの際やめて、もう少し発展的な姿勢を持つべきではないかな、という感じを持っております。それが今度のまちづくりビジョンの中にそういうにおいがないか、そういう方向性が打ち出されていないかという、そんなことはない訳でありますけれども、ただ、もう少しそのあたりを積極的に市民の皆さんが考えていただくといいなと。

今、副委員長から、これからこのビジョンに基づいて総合計画の見直しを始めていくんだという話がありましたけれども、特に都市マスタープランも見直されるんだと思います。そういうところに結びつけていくときにひとつ積極姿勢ということを念頭に置いていただけてやっていただくといいのではないかなと思っております。

この際、何かご発言のある方はいらっしゃいますか。

それでは、もうご意見も出尽くしたようでございますので、中津川市リニアのまちづくりビジョン(案)でございますが、これは決してこれが完成したいいわゆる計画書ではございません。これを今から市民の皆さんに見ていただいて、いわゆるパブリックコメントの手続がとられるわけでございます。

その原案としてこのビジョン案をまとめることにしたいと思います。この件について、皆さん、ご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 どうもありがとうございました。

それでは、今日を中心議題でございますけれども、リニアのまちづくりビジョン(案)について、原案のとおり承認するというにさせていただきます。

それでは、続きまして、議題2に移ります。

今後の進め方について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、ご説明申し上げます。

先ほど、ご説明申し上げたところではございますけれども、本日この案をご承認いただきましたので、今後、パブリックコメントの手続に入ってまいりたいと思います。できれば6月中に2週から3週をかけてしっかりと市民の皆様のご意見を頂戴して、その中でいろんなご意見をいただいたところを取りまとめてまいります。修正部分につきましては、委員の皆様と郵送等で確認をさせていただいた上で、次回の最終の8月2日に予定しております第6回の策定委員会にてご提示をさせていただきたいと思っております。細かな字句の修正につきましては、事務局にお任せいただければというふうに考えておるところでございます。8月2日には最終案ということでセレモニー的なことも少し検討してまいりたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

【委員長】 ただいまの今後の進め方の提案について、何かご質問、ご異議ございますか。

それでは、今後の進め方、今ご説明がありましたように承認させていただきたいと思っております。よろしゅうございますか。

(「異議なし」の声あり)

【委員長】 それでは、私のほうでお預かりしました本日の議事についてはこれで全て終了でございます。本当に今日は一区切りのこの委員会でございます。委員会を終わるに当たりまして、全体的に何かご発言のある方はいらっしゃいませんか。

ないようでございますので、私の議長の任務はこれで終わらせていただきます。

【司会】 ありがとうございました。

それでは、次第のその他に入らせていただきます。

初めに、1、交通費の請求明細書についてでございますが、今回も市の規定に基づき、ガソリン代相当の交通費をお支払いする手続をとらせていただきます。申請される方はお名前をご記入の上、事務局にお渡しいただきますようお願い申し上げます。また、ご自宅等でご記入される方は、出口にて返信用封筒をご用意しておりますので、事務局までお申しつけください。

続きまして、お知らせがございます。

皆様方には既に通知させていただいておりますが、中央新幹線計画の岐阜県説明会がJR東海とリニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会の共催によりまして、5月25日の土曜日、午後1時半から多治見市産業文化センター大ホールにおいて開催されます。遠方での開催であり、また、会場付近に駐車場が少ないため、送迎バスを用意させていただきますので、送迎バスをご利用の上、ぜひ参加をいただきますようお願いいたします。

せっかくの機会でございますので、他にご意見等がございましたらご発言をお願いいたします。よ

ろしいでしょうか。

それでは、長時間にわたりご審議をいただき、誠にありがとうございました。

最後に、副委員長より閉会の言葉をいただきたく存じます。

副委員長、よろしくお願いいたします。

**【副委員長】** それでは、閉会のご挨拶を申し上げます。

昨年の6月から5回にわたり、中津川市リニアのまちづくりビジョン策定委員会を開催しまして、本日ここによりやくビジョンがまとまることができました。本当に委員、また、アドバイザー、オブザーバーの皆様方、ありがとうございました。

これをもちまして閉式とさせていただきます。どうも本当にありがとうございました。

**【司会】** ありがとうございました。

それでは、本日の策定委員会はこれで終了とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

— 了 —